

「自殺対策事業における講演会」に同席して ―沖縄県北部地区薬剤師会―

富士市薬剤師会 羽二生 尚身

先日7月15日から17日にかけて、「自殺対策事業における講演会」をテーマに、沖縄県北部地区薬剤師会へ廣中会長と同行しました。

静岡県内自殺者は多いが、沖縄県においても引けを取らず自殺者の多い地区であることが統計上から見受けられている。都道府県別の失業率は国内でトップであり、産業構成からみれば、製造業が少なく、サービス業に携わる率は、東京都について全国2位という、特徴のある県である。静岡県とは人口、産業構造も異なるが、「自殺者が多い」という点において、共通点が見られるのも不思議である。

沖縄県内は、6支部で構成され、北部地区薬剤師会は、薬局数33件、会員53人の薬剤師の登録がある。支部の面積は、県内最大の為、医薬品の供給に時間要する。

昭和29年5月、九日会（旧北部薬友会）として発足し、42年6月には、同県薬剤師会北部支部として結成された。平成7年10月、県立北部病院の院外処方箋発行（3科）に伴い、院内にFAXコーナーが設置され、平成14年4月全面発行に伴い、（有）北部地区薬剤師会備蓄センターを設立。同年12月有限責任中間法人北部地区薬剤師会を設立。それに伴い、備蓄センターを中間法人へ移行。翌年11月北部地区薬剤師会医薬分業推進支援センター（医薬品備蓄センター・調剤センター）設立。北部地区医師会病院院外処方発行に備え、医師会病院にFAXコーナーを設置。平成16年1月北部地区薬剤師会営業薬局（調剤センター）をオープン。平成18年12月現北部地区薬剤師会館をオープン。

「自殺対策事業講演会」においては、北部福祉保健所、北部薬剤師会より40名余りの方々が出席されました。同会学術研修委員会委員長 浅沼 健一先生より講師紹介がなされ、同会会長 大橋得二先生より、この講演会の経緯が説明されました。これより廣中会長のオン・ステージとなるのですが、さすが、会長、見事な堂々たる講演でした。出発の前日、理事会終了後にリハーサルを行いました。本番では、それ以上の熱意の入った内容でした。とっても素晴らしいものでした。是非、富士市薬剤師会の皆さんに見てほしかったと思います。これも、講演会本番直前まで、北部地区薬剤師会の事務の大城さん・宮里さんによる沖縄県内の案内（観光？）から「沖縄そのもの」が廣中会長の脳裏に焼き付いたおかげ！？で成し遂げられたのではないのでしょうか？参加された方々も大変感動の様子でした。

懇親会では、参加せられた方々と沖縄県と静岡県、北部地区と富士市の「うつに関するこ

と」、「医療体制の違い」、「保健所・三師会のあり方」、「お国自慢」、「富士市薬剤師会へのお誘い」 e t c 時間の許されるまで、大変盛り上がりました。

出発までは、海水パンツは必要か？懇親会では、一緒に踊るのか？とか、冗談も含め、北部地区薬剤師会の皆様には、「一から十まで」・「至れり尽くせり」で、大変お世話になりました。数ある報告書の中で、この「富士モデル」（人口26万人）の発表内容が沖縄北部地区にどう取り上げられるのか、生かして、より充実した北部地区モデル→沖縄モデルへ波及していくことを期待したいと思います。ここには、保健所—三師会の間毎月会合が行われており、地域医療を実施する上でとても、まとまりがあるとのこと。富士市においても三師会の交流はあるけれど、現段階では、北部地区には及ばない。

今回の沖縄への同行は、富士市薬剤師会の発展に大きく影響を及ぼすもの、富士市に足りないもの、今後我々が真剣に取り組むべき方向を教えてくれたものと思いました。